

SYLLABUS

2023年

藤華医療技術専門学校

助産学科

1. 教育方針

藤華医療技術専門学校 教育方針 基本理念

本学校における看護師・理学療法士及び作業療法士・助産師養成の基本理念は、医療の基盤となる知識・技術及び態度を学ばせ、豊かな教養と礼儀・感謝の精神を身につけ、広く地域や社会に貢献し、生涯にわたり自己を啓発している人材を育成することにある。併せて本学園経営の姉妹校との連携を図り、保健・医療・福祉との関連性を深められるようにする。このため、本学校は、上記の教育理念を実現できるように学生を指導し、主体的な学習態度を確立させることにある。

藤華医療技術専門学校 教育目的

看護師・理学療法士及び作業療法士・助産師に必要な知識・技術及び態度を習得させるとともに豊かな人間性を養い保健・医療・福祉の進展に対応できる看護師・理学療法士及び作業療法士・助産師を育成する。

藤華医療技術専門学校 教育目標

- 1)看護師・理学療法士及び作業療法士・助産師に必要な基礎的知識・技術及び態度を身につける。
- 2)生命を尊び、他者の意思を尊重する豊かな感性を養う。
- 3)保健・医療・福祉でのチームワークにおける看護師・理学療法士及び作業療法士・助産師の役割を自覚し、社会の要求に応じた業務を実践する能力を養う。
- 4)看護・理学療法及び作業療法・助産の向上を目指すとともに、自己の看護観・理学療法観及び作業療法観・助産観を深めるよう常に研鑽する態度を身につける。
- 5)学園の建学の精神を尊重し、本校と姉妹校との連携を図り協力する態度を養う。

助産学科の教育方針

助産学科の教育目的

本校の「感謝・礼儀・奉仕」の校是を基本として、女性の生涯を通して、「性と生殖に関連した健康」を支えられる助産師として地域社会の母子保健向上に貢献するために必要な、知識・技術及び態度を修得するとともに、生命に対する尊厳を持ち母子に寄り添い支援する豊かな人間性を養う。保健・医療・福祉の方向性を見据え多様な価値観を受け止め、他職種と連携・協働を基盤として繋がることができ社会に貢献できる有意の人材としての助産師を育成する。

助産学科の教育目標

- 1)生命を尊び、人々の多様な価値観と他者の意思を尊重する豊かな人間性を養う。
- 2)専門職として自然性を尊重する自律した助産活動ができる能力と助産師としての基本的姿勢や態度を養う。
- 3)次世代を育む母性やそれを取り巻く家族、及び女性の生涯を通じた健康問題の解決のため、必要な知識・技術及び態度を身につける。
- 4)妊産褥婦及び胎児・新生児の健康水準を的確に診断し、妊娠・分娩・産褥が自然で安全に経過し、育児を主体的に行えるよう科学的根拠に基づいて支援できる能力を養う。
- 5)保健・医療・福祉チームの一員として助産師の役割を自覚し、安心して子供を産み育てるために、他職種と連携・協働した支援ができるための調整能力を養う。
- 6)知の尊重を基本として、自己の助産観を深め助産師として常に研究する態度を身につける。

2. 授業科目 単位・時間数一覧

分野	教科目	授業科目	単位数	時間数
専門基礎科目	基礎助産学	助産学概論	1	30
		母子の基礎科学 I	1	15
		母子の基礎科学 II (周産期医療)	1	15
		母子の健康科学	1	30
		母子の心理社会学	1	30
		乳幼児成長発達論	1	15
		助産学研究	1	30
		小計	7	165
専門科目	助産診断・技術学	周産期の生理と病態 I (妊娠期)	1	15
		周産期の生理と病態 II (分娩期)	1	15
		周産期の生理と病態 III (産褥期)	1	15
		周産期の生理と病態 IV (新生児期)	1	15
		助産診断・技術学 I-① (相談・教育)	1	30
		助産診断・技術学 I-② (ウィメンズヘルスケア)	1	30
		助産診断・技術学 II-① (妊娠期)	1	30
		助産診断・技術学 II-② (分娩期)	1	30
		助産診断・技術学 II-③ (産褥期)	1	30
		助産診断・技術学 II-④ (新生児期・乳幼児期)	1	30
		助産診断・技術学 III (ハイリスク支援)	1	15
		助産診断・技術学 IV (助産過程)	1	30
		健康教育 (母親学級・性教育・周産期の指導)	1	15
	小計	13	300	
	地域母子保健	地域母子保健 I (地域母子保健・国際母子保健)	1	15
		地域母子保健 II (地域における子育て支援・母子訪問)	1	15
	助産管理	助産管理	2	30
	小計	4	60	
	合計		24	525
臨地実習		助産診断・技術学実習 妊娠期	2	90
		助産診断・技術学実習 分娩期 I	2	90
		助産診断・技術学実習 分娩期 II	2	90
		助産診断・技術学実習 産褥期・新生児期	2	90
		助産診断・技術学実習 ハイリスク	1	45
		地域母子保健実習 (生後4ヶ月までの母子)	1	45
		助産管理実習	1	45
		小計	11	495
	総計	35	1020	
特別教育活動	接遇	単位換算なし	45	

4. 科目の位置付けと考え方

1) 基礎助産学

少子・高齢化が進展している我が国において、周産期をめぐる現状は変化を続けている。ハイリスク妊婦の増加と、役割分担した医療体制の構築の必要性が求められている。助産師はローリスクの妊娠・出産を自立して支援することだけでなく、時代を育む母性や家族への支援、女性の生涯を通じた性と生殖をめぐる健康への支援など、期待される役割は拡大してきている。多様な場とライフステージに応じたウイメンズヘルスケアを理解すること、リプロダクティブヘルスの視点を持ち、支援することが求められる。これらを踏まえ、基礎助産学では、広い視野に立って考える能力を養うための基礎となる知識を中心として7科目(助産学概論・母子の基礎科学Ⅰ・母子の基礎科学Ⅱ・母子の健康科学・母子の心理社会学・乳幼児成長発達論・助産学研究)7単位を設定した。

ここでは助産の概念、歴史、文化、助産師の役割を学び、助産師の専門性、助産に求められる姿勢、態度について考える機会を持たせる。また母子保健の現状と動向、関係職種、関連機関との連携について学ぶ。

女性の一生を通じて、性と生殖をめぐる健康問題への支援ができるように女性の身体的側面の基礎的知識を学ぶ。近年の生殖医療の現状から、周産期医療における倫理的諸問題に関する知識を学び、母子の命を同時に尊重することの責任を持つ役割を理解する。生命倫理について専門職としての態度や望ましい行動について考える内容とする。周産期医療における診断法の基礎的知識、とメンタルヘルスケアについて学び、助産診断・技術学における実践へとつなげられる学修とする。

さらに、母子を取り巻く環境・心理、社会的側面、文化的側面の特徴を統合的に理解し、それらを元に母性・父性を育む支援についても学ぶ。

乳幼児の発達には愛着形成が密に関係する。まず乳幼児の成長発達・生理、病態及び支援について学びを深め、愛着形成を支援する基本的知識を学ぶ。これらの内容は、安心して子供を産み育てる支援を推進する地域母子保健(Ⅱ)へと繋がる内容である。

助産学研究では、助産師としての専門性、責任を持つ態度や倫理性を学ぶ。事例研究を通して、探究し続ける思考と知識に関する技術及び態度を学修する。

2) 助産診断・技術学

助産診断・技術学は、周産期の生理と病態Ⅰ(妊娠期)、周産期の生理と病態Ⅱ(分娩期)、周産期の生理と病態Ⅲ(産褥期)、周産期の生理と病態Ⅳ(新生児期)、助産診断・技術学Ⅰ—①(相談・教育)、助産診断・技術学Ⅰ—②(ウイメンズヘルスケア)・助産診断・技術学Ⅱ—①(妊娠期)、助産診断・技術学Ⅱ—②(分娩期)、助産診断・技術学Ⅱ—③(産褥期)、助産診断・技術学Ⅱ—④(新生児・乳幼児期)・助産診断・技術学Ⅲ(ハイリスク支援)・助産診断・技術学Ⅳ(助産過程)・健康教育の13科目13単位を設定した。

ここでは、ローリスクの妊産褥婦・新生児・乳幼児および、家族の助産診断ができ、継続した支援を行うための知識、助産実践につながる技術を修得する。そのため周産期の生理的变化・心理社会的変化について学ぶ。生理的経過の診断と正常からの逸脱の判断、異常を予測する臨床判断力を養い、診断に伴う技術を修得する。

さらにハイリスク妊産褥婦、胎児およびハイリスク新生児の病態を理解し、根拠に基づきリスクに応じた助産診断の実施とケアを行う上で必要な知識を学ぶ。ハイリスクを含め、切れ目ない支援へとつなげるため他職種との連携・協働する地域母子保健の学習へつなげていく。これらの学習をもとに、妊産褥婦・新生児の対象に応じた助産ケアの実践を行うための基礎的技術を学ぶ。常に対象の主体性を尊重した安全な分娩と育児への支援ができるよう、分娩介助技術の要点を修得し、継続的支援の方法を学ぶ。

分娩時の緊急事態への対応や裂傷部縫合、新生児蘇生法に対応する演習を行う。

周産期にある人だけでなく、各ライフステージにおけるウイメンズヘルス・リプロダクティブヘルスの観点から相談・教育の基礎と支援の方法を学ぶ。特にプレコンセプションケアとして性教育、成熟期の女性を中心とした特徴と支援、また更年期老年期女性への援助について学習する。教育指導や他職種との連携において必要なコミュ

ニケーション能力と技術について学ぶ。

3) 地域母子保健

地域母子保健は地域母子保健Ⅰ(地域母子保健・国際母子保健)、地域母子保健Ⅱ(子育て支援)の2単位を設定した。母子保健に関する地域社会の現状や課題を理解する。国際社会の母子保健についての現状を理解する。安心して、子供を産み育てる支援を推進するため、多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供するために、地域の関係する職種、関連機関との情報共有、調整、連携、協働の重要性について学び、支援の方法を学習する。それらに基づき妊娠中から育児における切れ目のない支援を支える職種としての助産師の役割を地域の視点から学ぶ。

4) 助産管理

助産管理業務及び助産所の運営の基本、周産期医療システムについて学ぶ。また、安全性と快適さを追求しつつ、医療安全の基本となる考え方や知識について学び助産管理に必要な基礎的姿勢を身につける。さらに施設内の安全管理及び、災害時支援の基礎と対応方法について学ぶ。

5) 臨地実習

基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健、助産管理の科目で学んだ基礎知識や診断技術を活用して、ウェルネスの視点から助産過程を展開し、対象に応じた助産診断を行う。また、診断に基づいた支援・助産実践ができる能力を養う。実習科目としては、助産診断・技術学実習、地域母子保健実習、助産管理実習の3科目計11単位をおく。

(1)【助産診断・技術学実習】

周産期にある対象に助産診断・技術学の知識を用いて助産過程を展開する。妊娠期は、妊婦の健康診査を通して、経過の診断を行い、異常の有無を判断する。分娩期においては、自然な経過を理解し安全で快適な分娩への支援を学ぶ。産褥・新生児期には、愛着形成や母乳育児支援、1ヶ月までの母子のアセスメント及び家族の支援について学ぶ。経過中の正常逸脱の予防・逸脱回避の技術や緊急事態時の対応も学ぶ。周産期センターにおけるハイリスク支援の実践見学を通して、産科合併症、合併妊娠、ハイリスク新生児の診断とケアにおいて、リスクの状況に応じた支援について理解を深める。

(2)【地域母子保健実習】

地域における母子保健活動の実際を理解する。同時に地域の特性を理解するとともに課題とその対応について学ぶ。地域特性を踏まえた地域包括支援、切れ目のない支援の実際を学ぶ。生後3～4ヶ月までの育児の支援の実際や、様々な問題を抱える妊産婦への支援の実際を通して、地域における助産師としての役割を考える機会とする。

(3)【助産管理実習】

産科を取り扱う医院、病院および助産所における助産管理業務の実際や運営、周産期医療システムを学ぶ。また、医療安全の考え方とその実際を学ぶ。各施設における助産管理の実際を通して、助産師の役割を学ぶ

6. 授業科目と担当講師

長、補佐、専任教員及びその他の教員等の氏名、担当科目及び専任・兼任の別

職 位	氏 名	専門領域	担当科目	時 間 数	専任・兼 任の別	承 諾 書 の 有 無	備考	
学校長 (養成所長)	佐藤玉枝				専任	有		
専任 教員	教務主 任	基礎助産学	助産学概論	30	専任	有		
			助産学研究(講義)	10				
			助産学研究(事例指導)	18				
			乳幼児成長発達論	2				
		助産診断・技術学	助産診断・技術学IV (助産過程:ハイリスク)	15				
			助産診断・技術学 (健康教育)	15				
			助産診断・技術学実習	405				
		助産管理	助産管理(助産院開設)	12				
			助産管理実習	45				
		地域母子保健	地域母子保健Ⅱ (子育て支援)	15				
	地域母子保健実習		45					
	実習調 整者	工藤美奈子	基礎助産学	助産学研究(事例指導)	18	専任		有
			助産診断・技術学	周産期の生理と病態Ⅲ (産褥期)	4			
				助産診断・技術学Ⅱ—② (分娩期)	30			
				助産診断・技術学Ⅱ—④ (新生児期・乳幼児期)	30			
				助産診断・技術学Ⅲ (ハイリスク支援:分娩期・新 生児期)	15			
				助産診断・技術学 (健康教育)	15			
				助産診断・技術学Ⅳ (助産過程:分娩期) (助産過程:新生児期)	14			
助産診断・技術学実習				405				

			助産管理	助産管理(助産院開設)	12			
				助産管理実習	45			
			地域母子保健	地域母子保健実習	45			
	担任	森山 綾	基礎助産学	助産学研究(事例指導)	18	専任	有	
			助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅱ—③ (産褥期)	30			
				助産診断・技術学Ⅲ (ハイリスク支援 :産褥期)	4			
				助産診断・技術学Ⅳ (助産過程:産褥期)	6			
				助産診断・技術学 (健康教育)	15			
				助産診断・技術学実習	405			
	専任教員	宇留嶋佳子	基礎助産学	助産学研究(事例指導)	18	専任	有	
			助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ (相談・教育)	30			
				助産診断・技術学Ⅰ (ウイメンズヘルス)	30			
				助産診断・技術学Ⅱ (妊娠期)	30			
				助産診断・技術学Ⅲ (ハイリスク支援:妊娠期)	4			
				助産診断・技術学Ⅳ (助産過程:妊娠期)	16			
				助産診断・技術学 (健康教育)	15			
				助産診断・技術学実習	405			
			助産管理	助産管理実習	45			
			地域母子保健	地域母子保健実習	45			
実習指導教員								
その他の教員 (非常勤講師)	河野康志	基礎助産学	母子の基礎科学Ⅰ		2	兼任	有	大分大学医学部産婦人科学講座 准教授
	西田欣宏	基礎助産学	母子の基礎科学Ⅰ		2	兼任	有	大分大学医学部産婦人科学講座 准教授
	西田正和	基礎助産学	母子の基礎科学Ⅰ		3	兼任	有	大分大学医学部産婦人科学講座医局 長
	佐藤初美	基礎助産学	母子の基礎科学Ⅰ		2	兼任	有	大分大学医学部産婦人科学講座病院

							特任助教
甲斐健太郎	基礎助産学	母子の基礎科学 I	2	兼任	有		大分大学医学部産婦人科学講座助教 遺伝相談室副室長
青柳陽子	基礎助産学	母子の基礎科学 I	2	兼任	有		大分大学医学部産婦人科学講座 助教
矢野光剛	基礎助産学	母子の基礎科学 I	2	兼任	有		大分大学医学部産婦人科学講座 医員
岡本真実子	基礎助産学	母子の健康科学	2	兼任	有		大分大学医学部産婦人科学講座助教
井上尚実	基礎助産学	母子の健康科学	2	兼任	有		大分大学医学部産婦人科学講座 助教
衛藤 聡	助産診断・技術学	周産期の生理と病態Ⅲ (産褥期)	5	兼任	有		大分大学医学部産婦人科学講座 病院特任助教
麻生咲季	基礎助産学	母子の基礎科学 I	2	兼任	有		大分大学医学部産婦人科学講座医員
佐藤昌司	基礎助産学	母子の基礎科学 II (周産期医療)	17	兼任	有		大分県立病院 院長
	助産診断・技術学	周産期の生理と病態Ⅱ (分娩期)	15				
豊福一輝	基礎助産学	母子の基礎科学 I	2	兼任			大分県立病院 総合周産期母子医療 センター第一産科部長
	助産診断・技術学	周産期の生理と病態 I (妊娠期)	15				
飯田浩一	助産診断・技術学	周産期の生理と病態Ⅳ (新生児期)	15	兼任	有		大分県立病院 総合周産期母子医療 センター所長
福島直喜	基礎助産学	乳幼児成長発達論	13	兼任	有		中津市民病院 小児救急センター長
望月 聡	基礎助産学	母子の健康科学 :母子と栄養	9	兼任	有		大分大学 教育学部 教授
麻生清子	基礎助産学	母子の健康科学 :母子と歯科	6	兼任	有		藤華歯科衛生専門学校 歯科衛生部 長
阿部文香	基礎助産学	母子の基礎科学 II	2	兼任	有		マタニティビクスインストラクター
		母子の健康科学 :母子と運動	12				
上屋 香	基礎助産学	母子の健康科学:代替補助 医療・アロマセラピー	4	兼任	有		アロマセラピスト
梅野貴恵	基礎助産学	助産学研究	4	兼任	有		大分県立看護科学大学 教授
樋口 幸	基礎助産学	助産学研究	6	兼任	有		大分県立看護科学大学 准教授
四童子龍子	基礎助産学	母子の心理社会学	30	兼任	有		臨床心理士
	助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ-① (教育・相談)	6				

	芦刈美和	助産診断・技術学	周産期の生理と病態Ⅲ (産褥期)	4	兼任	有	ドーナツ助産院 院長
	河野富美代	助産診断・技術学	周産期の生理と病態Ⅲ (産褥期)	4	兼任	有	助産師
	姫島洋子	地域母子保健	地域母子保健 I	15	兼任	有	保健師
	渡邊めぐみ	助産管理	助産管理	15	兼任	有	アルメイダ病院 副看護部長
	戸高佐枝子		助産所管理	4	兼任	有	サエラ助産院 院長
	生野未子		助産管理 (助産所運営の実際)	4	兼任	有	生野助産院 院長
事務職員	帆足大				専任	有	

<記載要領>

- 1 養成所長及び養成所長補佐が兼任の場合には、その所属及び職位を「備考」欄に記載すること。
- 2 その他の教員については、その所属及び職位を「備考」欄に記載すること。
- 3 専任教員については、その専門領域を記載すること。

7. 授業科目の概要及び授業計画

授 業 科 目	助産学概論	専門分野:必修	1単位:30 時間/実講義時間 30 時間	教授方法(講義)
担当者	園田絵里 (実務経験者)助産師	臨床において助産師、看護教員としての実務経験を有している		
授 業 概 要	助産学の基本概念と助産師の役割・責務を理解し、母子保健活動を主体的に展開するために必要な基本的知識を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 助産の概念を理解する。 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を理解し、生涯にわたる女性への健康支援を考える。 3. 人間の性と生殖及び生命に直接かかわる助産師としての生命倫理を考える。 4. 母子保健と助産の変遷並びに現状と動向を学び、今後の母子保健のあり方を考察する。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1～2	4	助産の概念	園田絵里	講義	
3	2	助産に関係する概念 リプロダクティブヘルス/ライツ ジェンダー 性の多様性 性の健康 VD		講義	
4	2	助産師の定義 助産師と法律			
5～6	4	助産師の業務・責務と今後の展望		講義	
7	2	助産学を支える理論		講義	
8	2	助産師の歴史・文化 古代から江戸時代までの助産の変遷推移 明治から昭和初期の助産の変遷		講義 講義	
9～10	2	母子保健の動向 母子保健の歴史 現代の母子保健 母子保健の動向と諸制度		講義 課題レポート 講義	
11	2	助産師と倫理		グループワーク	
12～13	6	事例における倫理問題の検討			
14	2	グループ発表・講評			
15	2	筆記試験・解説			
成績評価		・終講試験(100 点満点)によって行う。 (ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書・参考図書		我部山キヨ子・武谷雄二 編集 助産学講座1 助産学概論 医学書院 ・母子保健の主なる統計(令和5年度) ・我が国の母子保健(令和3年版) ・看護六法 令和4年度版 新日本法規			

授 業 科 目	母子の基礎科学 I	専門分野:必修	1単位:15 時間/実講義時間:19 時間	教授方法(講義)
担 当 教 員	河野 康志(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	西田 欣広(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	西田 正和(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	甲斐健太郎(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	矢野 光剛(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	青柳 陽子(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	麻生 咲季(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	佐藤 初美(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	豊福 一輝(実務経験者)医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
授 業 概 要	人の生殖系の構造・機能を理解し、ライフサイクル各期の健康問題(乳腺疾患含む)及びその対処法について学ぶ。生殖医療の動向について学ぶ。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の生殖系の構造・機能を理解する。 2. 生殖に影響を及ぼす遺伝や不妊の基礎知識を理解し、生殖医療に関する助産師の倫理を考察する。 3. 妊娠に影響する遺伝・免疫・感染についての知識を学ぶ。 4. 女性のライフサイクル各期における健康問題(乳腺疾患含む)を理解する。 			

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	リプロダクションに関する解剖・生理	佐藤初美	講義
2	2	性行動と機能	麻生咲季	
3		周産期の遺伝医療と遺伝カウンセリング	甲斐健太郎	
4	2	生殖補助医療	河野康志	
5		母子と免疫	青柳陽子	
6	2	母子と感染 総論 各論	矢野光剛	
7	2	婦人科感染症 性感染症	西田欣広	
8	2	女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患(悪性)(良性)	西田正和	
9	2	乳房の疾患	豊福一輝	
10	1	筆記試験		
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100点満点)によって行う。 ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 		
教科書・参考図書		我部山キヨ子編集 助産学講座2 母子の基礎科学	医学書院	

授 業 科 目	母子の基礎科学Ⅱ (周産期医療)	専門分野:必修	1単位:15 時間/実講義時間:19 時間	教授方法(講義)
担当教員	佐藤昌司(実務経験者):医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	阿部文香(実務経験者):助産師		臨床において助産師かつ日本赤十字救急法指導者としての実践経験を有している	
授業概要	周産期における医療・診断法の基礎を理解するとともに周産期におけるメンタルヘルスの特徴と支援を学ぶ。 新生児及び小児への緊急時の支援について基礎を学ぶ			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の検査及び超音波診断の基礎的知識を学ぶ。 2. 周産期のメンタルヘルスの特徴について理解し、支援の方法を学ぶ 3. 小児救急法の基礎的知識と支援の実際を学ぶ 			

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	臨床検査	佐藤昌司	講義
3～4	4	超音波診断の基礎 胎児発育の見方・推定体重 胎児各部の観察 超音波検査の倫理的側面		講義
5～6	4	超音波機器の取り扱いと実際 画像表示の見方・基本姿勢・機器取り扱いの注意		演習
7～8	4	周産期のメンタルヘルスの基礎 精神疾患既往のある周産期女性への対応と支援 症状のある妊産婦への対応と支援		講義
9	1	筆記試験		
1	2	小児救急法	阿部文香	講義・演習
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100点満点)によって行う。 (ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 			
教科書 参考図書	我部山キヨ子他編集 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [妊娠期] 医学書院 吉田敬子他監修 妊娠中から始めるメンタルヘルスケア 日本評論社 講師作成資料			

授 業 科 目	母子の健康科学	専門分野:必修	1単位:30 時間/実講義時間 33 時間	教授方法 (講義・演習)
担 当 者	岡本真実子(実務経験者)医師	臨床において産婦人科医師の実践経験を有している		
	井上尚実(実務経験者)医師	臨床において産婦人科医師の実践経験を有している		
	望月聡(実務経験者)教授	大学において教育及び栄養学の専門家としての実務経験を有している		
	阿部文香(実務経験者)助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している		
	麻生清子(実務経験者) 歯科衛生士	臨床において歯科衛生士かつ歯科衛生士教育の実践経験を有している		
	上屋香(実務経験者) アロマセラピスト	JAS/JAA/AEJ 各アロマセラピー協会認定のアロメインストラクター、メディカルアロマ実践とセラピスト養成の実践経験を有している		
授 業 概 要	母子の置かれている環境を理解し、母子を取り巻く健康問題や健康に関する基礎知識と支援の方法を学ぶ。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子がおかれている生活環境・環境汚染等について理解する。 2. 嗜好品、薬剤が母子に与える影響と周産期に使用される薬剤について理解する。 3. 母子の栄養、特に妊婦・授乳婦・乳幼児期の栄養の重要性を理解し、健康教育支援のための基礎を学ぶ。 4. 母子の歯科保健における基礎的知識を学び、口腔ケアと清潔保持指導の支援を学ぶ。 5. 周産期における運動の基礎的知識と必要性を学び、指導実践の方法を学ぶ。 6. 代替補助医療としてアロマセラピーの基礎的知識を学び、支援の実際を学ぶ 			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	母子と生活環境 生活環境と環境汚染	岡本真実子 井上尚実	講義 講義
2	2	母子と嗜好品・薬剤		
3	1	筆記試験		
1～2	4	母子と栄養 栄養と栄養素 母子の栄養の課題 望ましい生活	望月 聡	講義
3～4	4	栄養摂取基準 授乳婦の栄養 乳児の栄養 乳児、思春期の栄養 妊産婦の病態栄養 *妊娠前からの栄養指導		
1～3	6	母子の歯科保健 妊婦における口腔ケアの実地指導・歯周病と全身疾患の関係	麻生清子	講義 演習
1～5	10	母子と運動 妊婦の運動療法(マタニティピクスとは) マタニティピクスの実技、構成 グループ発表	阿部文香	講義 演習・レポート
1～2	4	妊産婦のためのアロマセラピー	上屋 香	講義・演習
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100 点満点)によって行う。 (ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・提示された課題レポートの提出による評価によって行う。 ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 		
教科書 参考図書		我部山キヨ子 編集 助産学講座3 母子の健康科学 医学書院		

授 業 科 目	母子の心理・社会学	専門分野:必修	1単位:30 時間/実講義時間 31 時間	教授方法(講義)
担当者	四童子 龍子 (実務経験者)臨床心理士	臨床心理士として、心理療法ケアに携わっており実務経験を有する		
授 業 概 要	母性の生涯にわたる心理社会面の変化や生殖に関連した心理問題について学習する。 母子・家族の心理・社会的側面を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 女性のライフサイクルにおける心理的問題を理解する。 2. 母子をとりまく家族や社会の機能及び役割について理解する。 3. 子育て支援の現状を理解する。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	第1章 女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題 (思春期・青年期)	四童子 龍子	講義
3～4	4	(成人 初期～中期)		
5～6	4	(妊娠期・出産期の諸問題)		講義・演習
7～8	4	(更年期・老年期)		講義・演習
9～10	4	第3章 家族と社会		
11～12	4	第4章 母親・父親と社会		
13～14	4	(母子関係の病理 ・ 父子関係)		
15	2	第5章 子供と社会		筆記試験
16	1	筆記試験		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100 点満点)によって行う。 ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 			
教科書 参考図書	村瀬聡美編集 助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院			

授 業 科 目	乳幼児成長発達論	専門分野 :必修	1単位:15時間/実講義時間 15時間	教授方法 (講義・演習・GW)
担 当 者	福島直喜(実務経験者)医師	臨床において小児科医師として実践経験を有している		
	園田絵里(実務経験者)助産師	臨床において助産師かつ教員として教育指導の実践経験を有している		
授 業 概 要	乳幼児の成長・発達を理解し、影響を及ぼす要因及び健康問題について学ぶ。 健康問題のある乳幼児の支援について学ぶ。			
到 達 目 標	1. 乳幼児の成長・発達に影響を及ぼす要因について理解する。 2. 乳幼児の成長・発達の基礎的知識を学び健康問題について考える。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	乳幼児期の発達と診察	福島 直喜	講義
2	2	新生児・小児(乳幼児期)の皮膚病変		
3	2	小児の感染症		
4	2	腫瘍、血液疾患		
5	2	細菌感染症・消化器		
6	2	循環器		
7	2	乳幼児期の主な疾患とケア		
8	1	筆記試験	試験	
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100点満点)によって行う。 ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。		
教科書 参考図書		横尾京子編集 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 医学書院 横尾京子他編集 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会		

授 業 科 目	助産学研究	専門分野:必修	1単位:30時間/実講義時間 30時間	教授方法(講義・事例研究作成)
担 当 者	梅野貴恵(実務経験者) 助産師・教授	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
	樋口 幸(実務経験者) 助産師・准教授	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
	専任教員 4 名 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	助産に対する科学的知識を深め、助産を発展的に展開できる能力を育成する。			
到 達 目 標	1. 専門職業人として研究の必要性を理解する。 2. 研究の基礎理論や方法を学び、事例研究をまとめることができる。 3. 事例研究を通して自己の助産観を深めることができる。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	研究の意義	梅野貴恵	講義
2	2	研究の方法	樋口 幸	
3	2	研究の方法 研究の倫理と安全	樋口 幸	
4	2	論文の書き方 発表の仕方	樋口 幸	
5	2	事例研究	梅野貴恵	
1	2	助産学研究 論文査読	専任教員	グループワーク レポート作成
2~5	8	クリティーク演習		
6	2	まとめ・発表		
7~8	4	事例研究のまとめ		事例研究まとめ 発表
9~10	4	事例報告 発表 (12月)		
成績評価		・講義出席 ・クリティーク演習結果レポート(1.レポート内容 2.取り組み姿勢) ・事例研究(1. 論文の内容 2. 発表 3. 態度の評価) (100点満点)によって行う。 ・100点満点で表された成績を、100~90点、89点~80点、79点~70点、69点~60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。		
教科書 参考図書		曾我部キヨコ 武谷雄二 編集 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院		

授 業 科 目	周産期の生理と病態 I (妊娠期)	専門分野:必修	1単位:15 時間/実講義時間 15 時間	教授方法(講義)
担 当 者	豊福 一輝 (実務経験者)医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している		
授 業 概 要	妊娠期における生理と現れやすい異常経過を理解し、正常からの逸脱の診断とその対処法について学ぶ			
到 達 目 標	1. 妊娠期における生理と病態について理解する。 2. 正常からの逸脱の判断ができる知識を修得する。 3. ハイリスク状態にある妊婦の状況を理解しリスクに応じた適切な管理を学ぶ。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	妊娠の診断とその経過 妊娠中の母体の生理的变化とそれに関わる病的状態	豊福 一輝	講義
3～4	4	妊娠に関連した検査・妊娠中の診断		講義
5～7	6	妊娠期の異常		
8	1	筆記試験		講義
成績評価	・終講試験(100 点満点)によって行う。 ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書 参考図書	我部山キヨ子他編集 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [妊娠期] 医学書院 森恵美他編集 助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア <small>日本看護協会出版会</small> 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト第 7 巻 <small>ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会</small>			

授 業 科 目	周産期の生理と病態Ⅱ (分娩期)	専門分野:必修	1単位:15 時間/実講義時間 17 時間	教授方法(講義)
担 当 者	佐藤 昌司 (実務経験者)医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している		
授 業 概 要	分娩期における生理と現れやすい異常経過を理解し、正常からの逸脱の診断とその対処法について学ぶ。			
到 達 目 標	1. 分娩期における生理と病態について理解する。 2. 正常な経過と正常からの逸脱の判断ができる知識を修得する。 3. ハイリスク状態にある産婦の状況を理解しリスクに応じた適切な管理を学ぶ。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1～2	4	分娩経過の診断に必要な知識 1. 分娩の概念 2. 分娩の3要素 3. 分娩経過と所要時間 4. 分娩の機序 5. 分娩が母体・胎児に及ぼす影響	佐藤 昌司	講義	
3～4	4	分娩経過の診断・アセスメントの視点 1. 分娩開始の診断 2. 分娩の4要素の関連性 3. 娩出力の状態 4. 産道および胎児の下降度 5. 胎児の発育・健康状態 6. 胎児付属物の状態 7. 産婦の心理的、社会的、文化的な状態		講義	
5～6	4	分娩期の異常とそのケア 1. 娩出力の異常 2. 胎児および胎児付属物の異常 3. 産道の異常・分娩時裂傷 4. 早産・過期産 5. 分娩に伴う損傷・合併症 6. 産科手術の介助とケア 7. 会陰縫合術の基本		講義・デモンストレーション	
7～8	4				
9	1	筆記試験			
成績評価		・終講試験(100点満点)によって行う。 ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書 参考図書		森恵美他編集 助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会 我部山キヨ子他編集 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 医学書院			

授 業 科 目	周産期の生理と病態Ⅲ (産褥期)	専門分野:必修	1単位:15時間/実講義時間 17 時間	教授方法 (講義・演習)
担 当 者	衛藤 聡 (実務経験者)医師	臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している		
	河野富美代 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している		
	芦刈美和 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している		
	工藤美奈子 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	産褥期における生理と現れやすい異常経過を理解し、正常からの逸脱の診断とその対処法について学ぶ。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 産褥期における生理と病態について理解する。 正常と逸脱の判断ができる知識を修得する。 ハイリスク状態にある褥婦の状況を理解しリスクに応じた適切な管理を学ぶ。 乳房管理の基本と基本的技術をまなぶ。 産褥期の母子の全身ケアについて学ぶ。 			

講義計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	産褥期の適応とアセスメント	衛藤 聡	講義
2	2	産褥期の異常とそのケア 1. 身体的な問題 2.精神的な問題		
3	1	筆記試験		
1～2	4	乳房ケアの基本 (解剖生理と乳房ケア)	工藤美奈子	講義 演習
1～2	4	産褥期の乳房管理とその実際	河野富美代	講義 演習
1～2	4	周産期における母子のケア	芦刈美和	講義 演習
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験、演習出席(100点満点)によって行う。 ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 			
教科書 参考図書	横尾京子他編集 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア/新生児期/乳幼児期のケア 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会			

授 業 科 目	周産期の生理と病態IV (新生児期)	専門分野:必修	1単位:15時間/実講義時間 15時間	教授方法(講義)
担 当 者	飯田浩一 (実務経験者)医師	臨床において新生児科医師としての実践経験を有している		
授 業 概 要	新生児の生理と病態・異常症状と疾患を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 新生児の生理的経過と病態生理・異常症状・疾患について理解する。 2. 低出生体重児について理解する。 3. 新生児救急蘇生法について理解する。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	新生児医療総論	飯田浩一	講義
		SIDS		
		虐待		
2～3		新生児仮死・呼吸障害		
4	2	新生児の体外生活適応の障害		
5	2	先天性心疾患		
6	2	低出生体重児		
7	2	症例呈示		
8	1	筆記試験		
成績評価		<p>・終講試験(100点満点)によって行う。</p> <p>・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。</p> <p>ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。</p>		
教科書 参考図書		<p>横尾京子他編集 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア・新生児・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会</p> <p>遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会</p> <p>田村正徳監修 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社</p>		

授 業 科 目	助産診断・技術学 I (相談・教育)	専門分野:必修	1単位:30 時間/実講義時間 30 時間	教授方法 (講義・演習・GW)
担 当 者	宇留嶋佳子(実務経験者)助産師・保健師	臨床において保健師・助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
	四童子龍子(実務経験者)臨床心理士	臨床心理士として実務経験を有している		
授 業 概 要	助産活動を支える相談・教育援助技術の基本を学び、効果的な保健指導・健康教育を実践できる能力を養う。			
到 達 目 標	1. ライフサイクル各期を対象とした保健指導・健康教育の意義を理解する 2. 対象にあった指導についての基本技術を学ぶ。(訪問・カウンセリング)			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法		
1	2	助産診断・技術学とは	宇留嶋佳子	講義		
2～3	4	相談・教育の基本 学習の理論 理論的基盤				
4～6	6	相談教育活動 相談技術の基本 相談・教育の方法 個人へのアプローチ 集団へのアプローチ				
7～9	6	健康教室の実際 (性教育)			四童子龍子	講義・演習・GW
10 ～ 11	4	家庭訪問				
12 ～ 14	6	カウンセリング技術 カウンセリング的相談・介入方法 カウンセリング演習				
15	2	筆記試験 ・解説	講義・演習			
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験、小テスト(100 点満点)によって行う。 (ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・演習への取り組み及び内容も評価対象とする。 ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 				
教科書 参考図書		堀内成子・片岡弥恵子編 助産学講座5 助産診断・技術学 I 医学書院 吉沢豊予子責任編集 助産師基礎教育テキスト 第2巻 日本看護協会出版会				

授 業 科 目	助産診断・技術学 (ウイメンズヘルスケア)	専門分野:必修	1単位:30 時間/実講義時間 30 時間	教授方法(講義)
担当者	宇留嶋佳子(実務経験者)助産師・保健師	臨床において助産師・保健師としての経験かつ教員として実践経験を有している。		
授 業 概 要	女性のライフサイクルに応じた特徴を踏まえ、性と生殖に関する健康を支援するための方法を学ぶ			
到 達 目 標	1. ライフサイクル各期の支援を理解する。(思春期・成人期・更年期・老年期) 2. 性と生殖に関する自己決定について支援する方法を学ぶ 3. 受胎調節に関する知識と指導を行うための基礎的知識を学ぶ			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1	2	ライフサイクル各機の女性への支援	宇留嶋佳子	講義	
2	2	思春期女性の特徴 ジェンダーアイデンティティ			
3～4	4	性と生殖に関する健康教育 成人女性、更年期、老年期 女性の特徴と支援		講義	
5	2	性に関する健康問題 (不妊・DV)			
6	2	セクシャルヘルス 性教育の基本			
7	2	受胎調節の意義と目的・関連する法律		講義	
8	2	家族計画の基礎知識			
9～10	4	避妊方法① 基礎体温・コンドーム・経口避妊薬		講義・演習	
11～12	4	避妊方法② IUD・緊急避妊・永久避妊			
13～14	4	受胎調節・性教育 演習		GW ・演習	
15	2	筆記試験 ・解説			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験、小テスト(100 点満点)によって行う。 (ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・演習への取り組み姿勢及び内容も評価対象とする。 ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 				
教科書・参考図書	堀内成子・片岡弥恵子編 助産学講座5 助産診断・技術学 I 医学書院 吉沢豊子子責任編集 助産師基礎教育テキスト 第2巻 日本看護協会出版会 受胎調節指導用テキスト 一般社団法人 日本家族計画協会				

授 業 科 目	助産診断・技術学Ⅱ (妊娠期)	専門分野:必修	1単位:30 時間/実講義時間 30 時間	教授方法(講義)
担 当 者	宇留嶋佳子(実務経験者)助産師、保健師	臨床において助産師、保健師としての経験、かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	基礎助産学の知識を基に妊娠経過の正常・異常を診断するための、妊娠期の助産技術を学習する。			
到 達 目 標	1. 助産診断・技術学の概要を理解する。 2. 妊娠期の助産過程の展開に必要な知識と助産技術を学ぶ。 3. 妊婦健康診査の診断技術及び支援方法を学ぶ。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1	2	助産診断・技術学の概要と助産診断	宇留嶋佳子	講義	
2～3	2	妊娠期の助産診断・助産過程の基本 妊娠期のフィジカルアセスメント		講義	
6～7	4	日常生活行動の診断 心理社会的側面の診断		講義・GW	
8	2	妊娠期の支援 日常生活適応へのケア・保健指導 心理社会的支援・就労女性への支援			
9	2	マイナートラブルへの対応		演習	
10～11	4	診断支援・技術演習 ・妊娠の診断・外診・健康診査(フィジカルアセスメント) ・妊婦体操・着帯・		講義・演習・GW	
12～14	6	妊娠期の保健指導・指導案作成とデモンストレーション			
15	2	筆記試験・解説			
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験、小テスト(100点満点)によって行う。 (ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 			
教科書・参考図書		我部山キヨ子他編集 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[妊娠期] 医学書院 森恵美他編集 助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア 日 本看護協会出版会			

授 業 科 目	助産診断・技術学Ⅱ② (分娩期)	専門分野:必修	1単位:30時間/実講義時間 30時間	教授方法(講義)
担当者	工藤美奈子 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	基礎助産学の知識を基に分娩期の助産診断を学ぶ。また、分娩介助を行うための基本技術を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 妊娠期から継続する分娩経過の予測・診断技法、正常な分娩経過へ導くための支援方法を理解する。 2. 対象の多様なニーズを理解し、主体性を尊重した出産のあり方を考察する。 3. 助産の実践に必要な基本的分娩介助技術を習得する。 4. 正常からの逸脱の判断と緊急時の対応について理解する			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	分娩の生理	工藤美奈子	講義
2	2	分娩期の助産診断 診断類型		
3～5	6	助産過程の基本		講義・演習
		分娩期のフィジカルアセスメント		
		健康診査・分娩開始の診断・経過診断		
		胎児の健康状態のアセスメント・附属物のアセスメント		
6～7	4	母体健康状態のアセスメント		講義・演習
		心理・社会的変化とアセスメント・支援		
8	2	産婦の支援 (産痛緩和・呼吸法・日常生活支援)		講義・演習
9	2	分娩介助の意義・原理		演習
10～14	8	分娩介助技術の実際		講義・演習
		教員デモンストレーション		
		学生デモンストレーション・介助技術練習		
15	2	筆記試験 ・ 解説		演習
成績評価	・終講試験(100点満点)によって行う。 ・実技試験(100点満点)によって行う。実技試験合格しなければ実習はできない ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書・参考図書	我部山キヨ子他編集 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 医学書院 町浦美智子他編集 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会			

授 業 科 目	助産診断・技術学Ⅱ③ (産褥期)	専門分野:必修	1単位:30時間/実講義時間 30 時間	教授方法(講義)
担当者	森山綾 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	基礎助産学の知識を基に、産褥期の助産診断及び褥婦の支援と助産技術について学習する。			
到 達 目 標	1. 産褥期の経過の予測・診断技法、正常な産褥経過を助長するための支援方法を理解する。 2. 産褥期の助産過程の展開に必要な知識と助産技術を学ぶ。 3. 母乳育児に関する適切な授乳技術を学ぶ。 4. 主体的な子育てができるように母子と家族を支援する方法を学ぶ。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1	2	産褥期の生理	森山 綾	講義	
2	2	産褥期の助産診断 診断類型・助産過程の基本		講義	
3～4	4	産褥期のフィジカルアセスメント 健康診査に必要な技術 経過診断・母乳栄養確立の診断		講義・演習	
5	2	心理社会的変化と助産診断			
6～8	6	産褥期の支援 ・退行性変化促進・進行性変化の促進 ・産後の生活に関する支援 ・育児技術 ・母乳育児支援		講義・演習 講義・演習	
9～10	4	産褥期の保健指導・育児期の支援		講義・GW	
11	2	マイナートラブルへの対処		演習	
12～14	6	援助技術演習 ・産褥体操・育児技術・技術チェック		講義	
15	2	筆記試験・解説		試験	
成績評価		・終講試験(100点満点)によって行う。 (ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。			
教科書・参考図書		我部山キヨ子他編集 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 医学書院 町浦美智子他編集 助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 日本看護協会出版会			

授 業 科 目	助産診断・技術学Ⅱ④ (新生児期・乳幼児期)	専門分野: 必修	1単位:30 時間/実講義時間 30 時間	教授方法(講義)
担 当 者	工藤美奈子 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	基礎助産学の知識を基に新生児の適応生理を理解し、ケア方法を学ぶ。 新生児に起こりやすい異常及び疾患を理解し、適切な対応を学ぶ。 乳幼児の健康診査の方法を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 新生児の適応生理を理解し、日常的なケア方法がわかる。 2. 母子関係確立のための支援を学ぶ。 3. 乳幼児の健康診査の実際が理解でき、健康診査に必要な技術がわかる。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1	2	新生児・乳幼児ケアの基本	工藤 美奈子	講義	
2～4	6	新生児のアセスメント:フィジカルアセスメント 助産過程の基本・新生児期の助産診断		講義・演習	
5～7	6	新生児支援の実際 出生直後のアセスメントとケア 出生後 24 時間までのアセスメントとケア 生後 24 時間以後早期新生児のケア		講義・演習 講義・演習 講義・演習	
8～9	4	家庭生活移行へのアセスメントとケア 退院指導における支援		講義	
10～11	4	退院後～1ヶ月健診までのアセスメントとケア 保健指導の基本と実践		講義 講義	
12～14	6	乳幼児期(生後 4 ヶ月程度まで)のアセスメントとケア 基本的技術 理論と実践 新生児の観察・沐浴・計測・出生直後ケア		演習	
15	2	筆記試験・解説			
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100 点満点)によって行う。 (ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 			
教科書 参考図書		我部山キヨ子他編集 助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児・乳幼児期 医学書院 町浦美智子他編集 助産師基礎教育テキスト6 新生児・乳幼児期のケア 日本看護協会出版会			

授 業 科 目	助産診断・技術学 ハイリスク支援	専門分野: 必修	1単位:15時間/実講義時間 18時間	教授方法(講義)
担 当 者	専任教員 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	ローリスクからの逸脱の診断について学ぶ。さらにハイリスクにおける支援の実際を学び、助産師として対象への診断、支援できる能力を学修する。			
到 達 目 標	1.ハイリスク妊産婦への支援の概念を学ぶ 2.ハイリスク状態の妊産婦・新生児へのセサメントと支援を学ぶ			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法	
1～2	4	ハイリスク妊娠・異常妊娠のアセスメントとケア 妊娠期の異常 合併症のある妊婦 社会的ハイリスク妊婦	園田絵里	講義	
3～4	4	ハイリスク・異常分娩時のアセスメントとケア 分娩経過への異常へのケア 合併症を持つ産婦へのケア	工藤美奈子		
5～6	4	ハイリスク・異常褥婦のアセスメントとケア 身体的問題のある褥婦・ 産褥合併症を持つ妊産褥婦のケア 心理・社会的ハイリスク妊産褥婦へのケア	森山綾		
7～8	4	低出生体重児・早産児・ 治療を受ける新生児のアセスメントとケア	工藤美奈子		
9	2	筆記試験・解説			試験・解説
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100点満点)によって行う。 ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。				
教科書・参考図書	堀内成子編 助産学講座 6・7・8 助産診断・技術学 II・III・IV 医学書院 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会				

授 業 科 目	助産診断・技術学 (助産過程)	専門分野:必修	1単位:30 時間/実講義時間 34 時間	教授方法(講義)
担 当 者	専任教員 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	ウェルネスの診断を基本として、周産期における助産過程展開の基礎を学ぶ			
到 達 目 標	1.助産過程を展開するために学んだ知識を元に、診断過程の方法を理解する 2.周産期各期における正常経過の助産過程が展開できる 3.周産期におけるハイリスク経過事例の助産過程展開を学ぶ。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～4	8	妊娠期 助産過程の展開	宇留嶋佳子	講義 グループワーク
5～9	10	分娩期 助産過程の展開	工藤美奈子	講義 グループワーク
10～13	8	産褥期・新生児期 助産過程の展開	森山綾 工藤美奈子	講義 グループワーク
14～17	8	ハイリスク事例の助産過程	園田絵里	講義 グループワーク
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・演習結果により評価を行う。(1.内容 2.取り組み姿勢 3.提出期限) ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 			
教科書 参考図書	我部山キヨ子他編集 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 医学書院 町浦美智子他編集 助産師基礎教育テキスト6 日本看護協会出版会 遠藤俊子他編集 助産師基礎教育テキスト7 日本看護協会出版会 実践マタニティ診断 第5版 日本助産診断実践学会 医学書院 今日の助産 南江堂			

授 業 科 目	健康教育（母親学級 ・性教育・周産期の指導）	専門分野: 必修	1単位:15時間/実講義時間 18時間	教授方法 (講義・演習)
担当者	専任教員 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	相談指導・援助技術の基礎的知識を活用し、健康教室・指導の企画立案及び運営の実際を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 妊娠期の母親学級(集団指導)の企画運営ができる 2. 性教育の(集団指導)の企画運営ができる 3. 産褥期における個別指導の企画、実施ができる			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	産褥期の個別指導:産褥期における指導(褥婦・新生児) 振り返り	専任教員	講義 グループワーク
2～4	6	妊娠期の集団指導:マザークラス 企画立案 デモンストレーション		演習
5	2	振り返り		グループワーク
6～8	6	性教育に関する集団指導:命の授業 企画立案 デモンストレーション		演習
9	2	振り返り		グループワーク
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・演習終了後の評価によって行う。(1.演習内容 2.取り組み姿勢 3.提出期限) ・デモンストレーション グループワーク結果発表によって評価を行う。 ・100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 			
教科書 参考図書	堀内成子編 助産学講座5 助産診断・技術学 I 医学書院 受胎調節指導用テキスト 一般社団法人 日本家族計画協会			

授 業 科 目	地域母子保健 1	専門分野:必修	1単位:15 時間/実講義時間 15 時間	教授方法(講義)
担 当 者	姫島 洋子 (実務経験者)保健師	地域の保健所において保健師としての実践経験を有している		
授 業 概 要	地域で生活する母子を含めた家族のニーズを理解し、母子保健サービスを提供する為の基礎知識を学ぶ。他職種と連携・協働しながら地域の母子保健を推進するための能力を養う			
到 達 目 標	1、法的根拠に基づいた母子保健サービスが提供される意義と仕組みを理解する。 2. 国際化を踏まえた地域における多様性を踏まえた母子保健活動の展開を理解する。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	地域母子保の意義	姫島洋子	講義
2	2	地域母子保健の現状と動向		講義
3	2	我が国の母子保健行政		講義
4	2	わが国の主な母子保健制度と母子保健施策		講義
5	2	地域母子保健活動の展開		講義
6~7	4	国際化時代の地域母子保健		講義
8	1	筆記試験		
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100 点満点)によって行う。(ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる) ・100 点満点で表された成績を、100~90 点、89 点~80 点、79 点~70 点、69 点~60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。 		
教科書 参考図書		武谷雄二他編集 助産学講座9 医学書院 ・母子保健の主なる統計 ・我が国の母子保健		

授 業 科 目	地域母子保健 II (子育て支援)	専門分野:必修	1単位:15 時間/実講義時間 18 時間	教授方法 (講義・演習)
担 当 者	専任教員:園田絵里 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	妊娠期から育児期の切れ目ない支援を実践するため、乳幼児についての支援の基礎的知識について学ぶ			
到 達 目 標	1. 乳幼児の健康診査に関する基礎的知識を学ぶ。 2. 乳幼児健診の目的、方法が理解できる。 3. 母子の家庭訪問の目的と方法が理解できる。 4. 子育てに関する実際の環境を学び、支援の方法を学ぶ。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	乳幼児の成長と発達	園田絵里	講義 講義
3	2	乳幼児の健康診査・乳幼児健診 子育て支援(栄養・遊び・事故防止)		
4～6	6	地域における子育て支援		
7	2	発表・講評		
1～2	4	*ベビーマッサージ=タッチケア		講義・演習
成績評価		・演習参加 グループワーク結果発表によって評価を行う。 ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。		
教科書 参考図書		我部山キヨ子他編集 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 医学書院 町浦美智子他編集 助産師基礎教育テキスト6 日本看護協会出版会		

授 業 科 目	助産管理	専門分野:必修	2単位:30 時間/実講義時間 35 時間	教授方法(講義)
担 当 者	戸高佐枝子 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している		
	生野未子 (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している		
	渡邊めぐみ (実務経験者)助産師	臨床において助産師としての実践経験を有している		
	専任教員:工藤美奈子 (実務経験者)助産師	臨床において保健師、助産師としての経験かつ教員として実践経験を有している		
授 業 概 要	助産業務の管理及び助産所の運営の基本及び周産期医療システムを学ぶ。 周産期における医療安全の確保と医療事故への対応について学ぶ。			
到 達 目 標	1.法的規定に基づく助産師の業務管理を理解する。 2.周産期医療システムと地域連携について理解する。 3.病院・診療所・助産所での業務管理を理解する。 4.周産期における医療安全の確保と医療事故への対応・災害時支援について理解する。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	第1章 助産管理の基本	渡邊めぐみ	講義
2~3	4	第2章 関連法規と助産師の業務・責任		
4	2	第3章 周産期管理システムとリスクマネジメント		
5	2	第4章 病産院における助産管理業務		
6	1	筆記試験		
1~2	4	第5章 助産所における助産管理業務		
1~4	8	「助産院開設」の実際(12月)	工藤美奈子	講義・GW
5~6	4	発表		
2	4	分娩期の診断・技術論 助産所における助産管理業務 (12月)	生野未子	講義
2	4	助産師に必要なエコー技術 院内助産 助産師外来 クリニカルラダー 災害時支援 (12月)	渡邊めぐみ	講義
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・終講試験(100点満点)または、演習終了後の評価(100点満点)によって行う。 ・演習参加 グループワーク結果発表態度も評価煮含める。 ・100点満点で表された成績を、100~90点、89点~80点、79点~70点、69点~60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。		
教科書 参考図書		成田伸編 助産師基礎教育テキスト3 我部山キヨ子他編集 助産学講座8 助産業務ガイドライン	日本看護協 医学書院 日本助産師会	

授業科目	助産診断・技術学実習	専門分野 :必修	妊娠期 2単位(90時間) 分娩期Ⅰ 2単位(90時間) 分娩期Ⅱ 2単位(90時間) 産褥・新生児期 2単位(90時間) ハイリスク 1単位(45時間)	実施 時間数	405時 間
担当者	学内教員実務経験者(助産師) 臨床指導者実務経験者(助産師)	臨床において助産師として、かつ教員としての実践経験を有している 臨床において助産師としての実践経験を有している			
授業概要	妊産褥婦及び胎児・新生児の助産診断・技術を実践し、妊娠・分娩・産褥が自然で安全に経過するための支援方法を学ぶことを目的とする。				
到達目標	妊 娠 期	① 妊娠期の診断に必要な情報について述べるができる。 ② 妊婦期の情報分析ができる。 ③ 妊婦の健康診査ができる。 ④ 妊娠期の診断に基づいて妊娠各期に応じた健康教育と支援が実施できる。 ⑤ 正常を逸脱した妊婦に対し適切な支援を述べるができる。			
	分 娩 期 Ⅰ ・ Ⅱ	① 分娩期の診断に必要な情報を述べるができる。 ② 分娩期の情報分析ができる。 ③ 産婦の主体性を尊重した分娩期の生活援助及び産痛緩和の援助ができる。 ④ 母子愛着形成への支援ができる。 ⑤ 分娩介助技術を安全に実施できる。 ⑥ 異常分娩や産科手術の介助または救急処置を見学しその要点を述べるができる。 ⑦ 産婦の分娩想起と出産体験を理解することができる。			
	産 褥 ・ 新 生 児 期	① 産褥期・新生児期における母子の助産診断ができる。 ② 褥婦のセルフケア能力を高める支援ができる。 ③ 褥婦に必要な保健指導が個別性をふまえて実施できる。 ④ 早期新生児の診断とケアができる。 ⑤ 母子関係成立、母乳栄養の確立に向けて支援ができる。 ⑥ 生後4ヶ月までの乳児の成長発達と子育ての支援について学ぶ			
	ハ イ リ ス ク	① ハイリスク状態にある対象の助産診断ができる。 ② 妊産褥婦に行われる治療を理解し、健康状態に応じた援助が実践できる。 ③ 保健医療職種間のチームワークと社会資源がわかる。 ④ ハイリスク児のおかれている医療・看護の概要がわかる。 ⑤ ハイリスク児の見学を通して、助産師の役割を理解する。			

授業計画

単位	時間	内容	担当教員	教授学習方法
2	90	1. 妊娠期の助産診断・健康診査 2. 妊娠期の保健指導 見学及び実施 3. 継続事例(妊娠期)の助産過程	学内教員 実習指導者	臨地実習 体験学習及び実施

2	90	4. 分娩期の助産過程 5. 分娩介助(10 事例程度)		見学 カンファレンス
2	90	6. 継続事例(分娩期)の助産過程		
2	90	7. 褥婦・新生児の助産過程 8. 褥婦・新生児への保健指導 9. 継続事例の助産過程 10. 生後4ヶ月までの乳児の健康診断		
1	45	11. ハイリスク妊産褥婦の助産過程・支援の実際 12. NICU の見学		

成績評価 : 所定の実習時間を満たし、かつ、10 例程度の分娩介助と助産過程の展開を終了
実習終了後の評価(100 点満点)によって行う。

臨地実習出席状況 : 学則規定の所定時間の実習を臨地実習として行うこと。

助産・診断学実習評価 : 妊娠期、分娩期Ⅰ、分娩期Ⅱ、産褥新生児期 = 各評価表・実習記録・レポート

100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。ただし、実習途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

分娩介助評価 : 10 例程度の分娩介助を実践し、介助事例ごとに技術面の項目について5段階評価を行う。
実践力として項目評価 3普通(指導者の助言のもとにできた)を達成すること。

ハイリスク実習

臨地実習出席状況 : 所定の実習時間数を臨地実習にて実践すること

ハイリスク実習評価表及び実習記録・レポート:

100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。

ただし、実習途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

テキスト: 随時提示する。

授 業 科 目	地域母子保健実習	専門分野:必修	1 単位:45時間	実施時間数	45 時間
担 当 者	学内教員 /実務経験者(助産師) 臨床指導者 /実務経験者(保健師)	臨床において助産師として、かつ教員としての実践経験を有している 臨床において保健師としての実践経験を有している			
授 業 概 要	地域における母子保健活動の実際を理解し、地域における助産師の役割を学ぶ。				
到 達 目 標	① 地域の特性と母子保健事業の概要がわかる。 ② 母子保健事業と助産師・保健師の活動内容が理解できる。 ③ 地域母子保健に関する関係機関との連携・協働について学ぶ。 ④ 地域における助産師の役割が理解できる。				

単 位	時 間	内 容	担 当 教 員	授 業 学 習 方 法
1	37.5	1. 保健所・市役所 ① オリエンテーション ・地域の特性 ・母子保健事業 ② 母子保健活動の実際 ・相談事業や保健指導 ・乳幼児健診 ・家庭訪問 ③ 関係機関との連携・協働 ④ カンファレンス	学内教員 実習指導者	臨地実習 体験 見学・カンファレンス
	7.5	2. 地域での助産師活動の見学・研修参加 ① 思春期性教育 ② 健康教育 ③ 地域でのイベント ④ 助産師会・看護協会研修参加		

評価方法:臨地実習出席状況 :所定の実習時間数を臨地実習にて実践すること

地域母子保健実習評価表及び実習記録・レポート:

100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。

ただし、実習途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

テキスト:随時提示する。

授 業 科 目	助産管理実習	専門分野:必修	1 単位:45時間	実施時間数	45 時間
担 当 者	学内教員 /実務経験者(助産師) 実習指導者 /実務経験者(助産師)	臨床において助産師として、かつ教員としての実践経験を有している 臨床において助産師としての実践経験を有している			
授 業 概 要	助産管理の実際を理解し、管理のあり方・助産師の役割を学ぶ。				
到 達 目 標	① 助産所・産婦人科医院における助産管理が理解できる。 ② 助産所における助産業務の実際がわかる。 ③ 助産師の地域での役割を理解できる。 ④ 助産師としての自律をふまえ責任ある行動と態度を考えることができる。				

単位	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	37.5	1. 助産所 ① オリエンテーション ・助産所における助産管理業務、責任範囲 ・助産所における医療安全の確保、医療事故防止の対策 ② 助産業務の実際 ③ カンファレンス	学内教員 実習指導者	臨地実習 体験 見学・カンファレンス
	7.5	2. 産婦人科医院 ① オリエンテーション ・助産管理業務 ・各実習施設における医療安全の確保、医療事故防止の対策		

評価方法:臨地実習出席状況 :所定の実習時間数を臨地実習にて実践すること

地域母子保健実習評価表及び実習記録・レポート:

100点満点で表された成績を、100～90点、89点～80点、79点～70点、69点～60点、60点未満の5段階に分割し、上位より S、A、B、C、D の評定とする。

ただし、実習途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。

テキスト:随時提示する。

授 業 科 目	特別教育活動	基礎分野:選択	単位換算なし	実施時間数	42 時間
担当者	学内教員/実務経験者(助産師)	臨床において助産師として、かつ教員としての実践経験を有している			
授 業 概 要	様々な行事・活動を通して医療人としての態度、礼儀、感謝の精神を身につけるとともに、多様な価値観と感性豊かな人間性を養うことを目的とする。				
到 達 目 標	異なる職種を目指す学生との交流を通して、交流の輪を広げる。 各行事を通して、礼儀と感謝・奉仕の精神を身につける機会とすることができる。 自己の助産観を深めるように常に研鑽する機会を得ることができる。				

月	時間	内容	担当教員	教授学習方法
4	10	自治会歓迎会・自治会総会	学内教員	学校行事参加
5	4	創立記念行事		学校行事参加
7	2	忌日祭 (学校行事)		学校行事参加
8	4	学園愛好の日		学校行事参加
11	8	藤華祭(学園祭)		学校行事参加
12	4	地域清掃活動実践		徳育活動
2	10	卒業前スキルアップ研修 ・講座 ・研修会参加 (大分県助産師会 主催) ・助産観発表		講座、演習
				研修会参加